《研究覚書》

拙著『新・ローマ帝国衰亡史』の参考文献について

南　川　高　志

私は，ここ数年間大学でおこなってきた講義を基にして，岩波新書『新・ローマ帝国衰亡史』を執筆し，本年５月に刊行しました。本稿では，この拙著の「あとがき」で記しておいたように，執筆の際に参考にした日本語の著書・論文を掲げたいと思います。執筆は昨年後半におこなわれたので，掲げている出版物や雑誌は昨年末までに刊行されたものです。史料や欧語文献は数が多くなり過ぎるため，叙述や図版の作成等に際して参考にした重要な研究文献だけを末尾に掲げることとします。また，文献は，私が拙著第２章以下のローマ帝国の衰退過程の叙述において参考としたものに限ります。第１章の最盛期のローマ帝国の記述については，私自身がこの時期のローマ帝国を長らく研究してきたため，私の発表したものに若干の新研究を追加する形で，これも本稿末尾に掲げることにします。キリスト教史そのものに関する研究文献や書評は，一部を除いて略しています。

もともとこの文献リストは，西洋史学以外の分野を専攻する学部学生・大学院生も受講する講義で配布した参考文献表でしたが，ローマ帝国史に関心を寄せる方の何かの参考になれば幸いです。

日本語の研究書・論文

足立広明　「初期ビュザンティオン社会の形成：シリアの都市と農村の関係を中心に」『文化史学』42，1986 年

同　「聖人と古代末期の社会変動：P・ブラウンの研究を中心に」『西洋史学』149，1988 年

同　「『聖人伝』に現れる砂漠の苦行僧：古代末期東地中海世界の社会変容におけるその役割」『史林』72-5，1989 年

同　「古代末期地中海世界における人の移動と社会変容」『岩波講座世界歴史 第２版 19』岩波書店，1999 年

同　「諸帝国の衰亡」『歴史学研究』878，2011 年

五十嵐修　「征服と改宗―クローヴィスと初期フランク王権―」角田文衛・上田正昭監修『古

代王権の誕生』Ⅳ，角川書店，2003 年
市川雅俊 「専制君主政成立期における軍制・民政分離の一断面―Primipilus 職の変化と軍用食糧」『史学雑誌』90-2，1981 年
同 「ローマ帝国と軍隊」伊藤貞夫・弓削達編『ギリシアとローマ』河出書房新社，1988 年
伊藤貞夫・本村凌二編『西洋古代史研究入門』東京大学出版会，1997 年
井上智勇 「古代末期再考」京都帝国大学西洋史研究室編『京都帝国大学 西洋史説苑』目黒書店，1942 年
井上文則 「大帝国統治と教養―一官僚の見たローマ帝国」南川高志（編）『知と学びのヨーロッパ史』，ミネルヴァ書房，2007 年
同 『軍人皇帝時代の研究』岩波書店，2008 年
内田芳明 『マックスヴェーバーと古代史研究』岩波書店，1970 年
浦野 聡 「ローマ帝国東部におけるアンガレイア制度の発展と村落共同体」『史学雑誌』97-11，1988 年
同 「後期ローマ帝国の支配階層形成期におけるクリアーレスの官職取得をめぐって」『歴史』74，1990 年
同 「後期ローマ帝国におけるアゲンテス・イン・レブス：その機能・編成上の特質と史的意義をめぐって」『史潮』新 29，1991 年
同 「後期ローマ帝国における官職パトロネジ」長谷川博隆編『古典古代とパトロネジ』名大出版会，1992 年
同 「後期ローマ帝国におけるデフェンソル・キウィタティス」平田隆一・松本宣郎編『支配における正義と不正』南窓社，1994 年
同 「後期ローマ帝国における納税強制と curiales」『西洋古典学研究』43，1995 年
同 「古代末期帝国東部における司教権力―その基盤としての『不正行為』？―」『西洋史研究』新 24，1995 年
同 「後期ローマ帝国における負担 munera 免除特権をめぐって」『史苑』56-2, 1996 年
大清水裕 「ディオクレティアヌス，コンスタンティヌス帝治世における都市・総督関係―北アフリカにおける都市監督官 curator rei publicae の活動をめぐって―」『史学雑誌』115-1，2006 年
同 「3 世紀後半のイタリア統治の変容と都市社会―コモ出土碑文再考―」『西洋古典学研究』55，2007 年
同 「ディオクレティアヌス帝治世のアクィレイア―都市・皇帝関係に見るアポロ・ベレヌス奉献碑文の意義―」『イタリア学会誌』57，2007 年
同 「港湾都市オスティアと食糧長官―ディオクレティアヌス帝治世の都市間競争」豊田浩志編『神は細部に宿り給う―上智大学西洋古代史の 20 年―』

南窓社，2008 年
同　「ヒスペッルム勅答碑文をめぐる諸問題―コンスタンティヌス帝治世イタリアの州会議と都市参事会員たち―」『西洋史研究』新 38，2009 年
同　「北アフリカにおける『都市』と皇帝―ディオクレティアヌス帝治世のラピドゥム市再建をめぐって―」桜井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム』，山川出版社，2010 年
同　「ローマ帝国終焉への道」本村凌二編『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』研究社，2011 年
同　『ディオクレティアヌス時代のローマ帝国―ラテン碑文に見る帝国統治の継続と変容―』山川出版社，2012 年
同　「マクシミヌス・トラクス政権の崩壊と北アフリカ」『史学雑誌』121-2，2012 年
大月康弘　『帝国と慈善　ビザンツ』創文社，2005 年
小田謙爾　「コンスタンティノープル市総督の市内統治に関する諸権限：テオドシウス法典を中心に」『史観』119，1988 年
同　「4-6 世紀のコンスタンティノープルにおける同職組合と国家」『西洋史学』180，1996 年
同　「解体前夜のローマ帝国：遠心力と求心力の葛藤」歴史学研究会編『古代地中海世界の統一と変容』青木書店，2000 年
神宮典夫　「ローマ帝政後期西部における逃亡コローヌス取戻立法の成立と崩壊」『国家学会雑誌』96-1・2，1983 年
同　「西ローマ帝政末期における税，皇帝領地代の徴収に関する一試論」『西南学院大学法学論集』20-3・4，1988 年
栗本　薫　「コンスタンティノープル 330 年―その実態と伝承の形成」『史林』71-2，1988 年
小坂俊介　「シルウァヌス反乱に関する諸史料：古代末期における歴史叙述とアンミアヌスの影響」『西洋史研究』新 40，2011 年
同　「カルケドン裁判考」『歴史』116，2011 年
後藤篤子　「シドニウス＝アポリナーリスにおける『ローマニズム』」『史学雑誌』91-10，1982 年
同　「キリスト教ローマ帝国における宗教闘争」伊藤貞夫・弓削達編『ギリシアとローマ』河出書房新社，1988 年
同　「古代末期のガリア社会」『岩波講座世界歴史　第 2 版 7』岩波書店，1998 年
同　「ローマ属州ガリア」柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『世界歴史大系　フランス史　1』山川出版社，1995 年
同　「帝政後期ガリアに見るローマとゲルマンの共生」『歴史学研究』716，1998 年
阪本 浩・新保良明・井上文則・大清水裕・保坂高殿「西洋史研究会 2009 年度大会共通論題

報告　3 世紀の『危機』再考」『西洋史研究』新 39，2010 年
桜井万里子・本村凌二『ギリシアとローマ』中央公論社，1997 年
佐々木博光「出自神話でみるドイツ史」『人文学報』（京都大学人文科学研究所）71，1992 年
同　「普遍史から国民史へ（上）・（下）―ヨルダネス『ゲティカ』の成立と受容について―」『歴史研究』35，1997 年，36，1998 年
指　珠恵「アンブロシウスと聖遺物崇敬―アリウス派論争を中心に―」『西洋史学』149，1988 年
佐藤彰一「古代から中世へ」『岩波講座世界歴史　第 2 版 7』岩波書店，1998 年
同　『ポスト・ローマ期フランク史の研究』岩波書店，2000 年
同　『中世世界とは何か』岩波書店，2008 年
柴野浩樹「後期ローマ帝国成立期における属州総督のオフィキウム―いわゆる軍政民政分離の過程において」『歴史』103，2004 年
田中　創「コンスタンティウス 2 世のコンスタンティノープル元老院議員登用運動再考」『西洋古典学研究』54，2006 年
同　「古代末期における公的教師の社会的役割：リバニオス書簡集の分析から」『史学雑誌』117-2，2008 年
同　「帝政後期における道長官の変容」桜井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム』，山川出版社，2010 年
同　「ローマ帝政後期の監獄」大芝芳弘･小池登編『西洋古典学の明日へ』知泉書館，2010 年
同　「ローマ帝政後期の法と実践：テオドシウス朝の事例をもとに」『歴史学研究』885，2011 年
同　「ローマ帝政後期のギリシア修辞学と法学・ラテン語教育」『西洋史研究』新 41，2012 年
田畑賀世子「フラウィウス・アブラビウス―コンスタンティヌス帝のキリスト教徒プラエフェクトゥス・プラエトリオ」『紀要』（早稲田大学大学院文学研究科）42，1997 年
同　「古代末期ローマ市司教選挙の研究（I）―ダマススとウルシヌス（366 年）」『西洋史論叢』19，1998 年
同　「古代末期ローマ市司教選挙の研究(II)―ボニファティウスとエウラリウス(418-419 年)」『史観』141，1999 年
反田実樹「『ディオクレティアヌス帝の最高価格令』の意図―地域間の商業的繋がり―」『文化史学』66，2010 年
豊田浩志『キリスト教の興隆とローマ帝国』南窓社，1994 年
長友栄三郎『キリスト教ローマ帝国』創文社，1970 年

同　『ゲルマンとローマ』創文社，1976 年
中西恭子　「ユーリアーヌス帝の宗教復興構想のなかの『祭儀』」『東京大学宗教学年報』17，2000 年
同　「アンティオキア市民のみたユリアヌス治下の『宗教と祭儀の復興』」『エイコーン』24，2001 年
同　「ユリアヌスの宗教思想における『ヘレニズム』とキリスト教」『中世思想研究』44，2002 年
同　「ユリアヌス帝の宗教政策から見た帝政後期のローマ帝国における国家儀礼」『歴史学研究』増刊号，2002 年
同　「紀元後四 - 五世紀の歴史叙述における『過てる哲人王』ユリアヌス」『宗教研究』83-4，2010 年
同　「日本における『背教者』ユリアヌスの受容に関する考察」『宗教研究』84-4，2011 年
同　「ユリアヌスの死生観における『死者のいる空間』と殉教者崇敬」『死生学研究』17，2012 年
中村　宏　「ゲルマン民族・大移動・部族国家」『岩波講座世界歴史 7　中世 1』岩波書店，1969 年
南雲泰輔　「ユリアヌス帝の意識のなかのローマ皇帝像―『ひげぎらい』における法律意識の分析を中心に―」『西洋古代史研究』6，2006 年
同　「オリエンス管区総監ルキアノス処刑事件―ローマ帝国の東西分裂期における官僚の権力基盤―」『史林』92-4，2009 年
同　「『佞臣ルフィヌス』像の形成と継承―後期ローマ帝国における官僚像の変遷とその意義―」『西洋史学』234，2009 年
同　「英米学界における『古代末期』研究の展開」『西洋古代史研究』9，2009 年
同　「後期ローマ帝国にける『蛮族』と皇帝家―スティリコ・セレナ・ホノリウス」『古代文化』62-3，2010 年
同　「『古代末期』研究と考古学をめぐる一動向―Luka Lanvan と『古代末期考古学』」『古代史年報』8，2010 年
同　「宦官エウトロピオスの行政改革―ローマ帝国の東西分裂期における宦官権力の確立」『史林』95，2012 年
同　「ローマ帝国の東西分裂をめぐって―学説の現状と課題」『西洋古代史研究』12，2012 年
同　「ローマ帝国の東西分裂―ローマ帝国解体期の政治行政史的研究―」博士学位論文（京都大学），2012 年
西村昌洋　「テミスティオスにおける『哲学』と『哲学者』」『西洋古代史研究』8，2008 年。

同　「テトラルキア時代ガリアにおける弁論家と皇帝―『ラテン語称賛演説集(Panegyrici Latini)』より―」『史林』92－2，2009 年
同　「テミスティオスの『宗教寛容論』」『西洋史学』239，2010 年
同　「プルデンティウスの『スティリコ頌』」『西洋古典学研究』60，2012 年
同　「後期ローマ帝国における頌辞と政治文化―言説・統治の技法・ローマ理念―」博士学位論文（京都大学），2013 年
新田一郎　「コンスタンティノポリスの建設とその意義」『史林』42-5，1959 年
長谷川宜之『ローマ帝国とアウグスティヌス』東北大学出版会，2009 年
林　信夫　「官吏任用方法としての『推薦 suffragium』―帝政後期ローマ官僚制の一側面」『専修大学法学研究所所報』2，1987 年
日置雅子　「シドニウス＝アポリナーリスの帝国理念（その 1）（その 2）」『愛知県立大学文学部論集（一般教育編）』24，25，1973 年
同　「中世初期のトゥリアに関する考古学的定住史的考察―古代から中世への連続・不連続的局面」『社会経済史学』60-2，1994 年
秀村欣二　「『背教者』ユリアヌスの精神形成―ユリアヌス研究序説―」『東京大学教養学部人文科学科紀要』1，1952 年
同　「古代・中世境界論―学説史的展望―」『東京大学教養学部人文科学科紀要』2，1953 年
同　「『カリラヤ人よ，汝は勝てり！』―背教者ユリアヌスとキリスト教―」民主主義科学者協会歴史部会編著『世界歴史講座』1，三一書房，1953 年
同　「『背教者』ユリアヌス帝と古代末期世界観―ユダヤ教・キリスト教・新プラトン哲学との対比において―」『東京大学教養学部人文科学科紀要』14，1958 年
同　「『背教者』ユリアヌスの宗教政策」川島重成・荒井献編著『神話・文学・聖書―西洋古典の人間理解―』教文館，1977 年
同　「コンスタンティヌス一世とその時代―異教との対応を中心として―」『東洋英和女学院短期大学　研究紀要』30，1992 年
同　『秀村欣二選集 4　論文―ギリシア・ローマ史』キリスト教図書出版社，2006 年
平田隆一　「ローマ帝国と中世ヨーロッパ―時代区分のための方法論的覚え書き―」片野達郎編『総合研究　中世の文化』角川書店，1988 年
保坂高殿　「コンスタンティヌス大帝の “改宗” 年代」『Studia Classica』1，2010 年
増田四郎　『西洋中世世界の成立』岩波書店，1950 年
同　『ゲルマン民族の国家と経済』勁草書房，1951 年
同　『西洋封建社会成立期の研究』岩波書店，1959 年
松本宣郎　『キリスト教徒大迫害の研究』南窓社，1991 年
同　「古代末期のローマ帝国とキリスト教―コンスタンティヌスからコンスタンティ

ウス二世へ」佐藤伊久男・松本宣郎（編）『歴史における宗教と国家―ローマ世界からヨーロッパ世界へ』南窓社，1990 年
同　「古代末期地中海世界とキリスト教―心性史的考察の試み」『地中海学研究』13，1990 年
同　「古代地中海都市の衰退とキリスト教」『西洋史研究』新 32，2003 年
同　『キリスト教徒が生きたローマ帝国』日本キリスト教団出版局，2006 年
南川高志（編）「フォーラム　ローマ帝国の『衰亡』とは何か」『西洋史学』234，2009 年
同　「『背教者』ユリアヌス帝登位の背景―紀元 4 世紀中葉のローマ帝国に関する一考察―」『西洋古代史研究』10，2010 年
本村凌二　「古代末期社会論」伊藤貞夫・樺山紘一（編）『地域文化研究Ⅰ　地中海世界の歴史像』放送大学テキスト，2002 年
同　『地中海世界とローマ帝国』講談社，2007 年，第 8 章～第 10 章
山下孝輔　「後期ローマ帝国における農民逃亡と法形成」『西洋古代史研究』11，2011 年
弓削　達　「マクセンティウスとコンスタンティヌス」『一橋論叢』28，1952 年
同　『ローマ帝国の国家と社会』岩波書店，1964 年
同　「後期ローマ帝国における都市の構造的変質」『古代史講座』10，学生社，1964 年
同　「末期ローマ帝国の体制」『岩波講座世界歴史 7　中世 1』岩波書店，1969 年
同　「ドミナートゥスの成立」『岩波講座世界歴史 3　古代 3』岩波書店，1970 年
同　『ローマ帝国はなぜ滅んだか』講談社（現代新書），1989 年
同　『永遠のローマ』講談社（学術文庫），1991 年（単行本での刊行は 1976 年）
吉田興宣　「後期ローマ帝国におけるクリアレースについて」『新潟大学教育学部高田分校研究紀要』14，1970 年
吉村忠典　「ローマ時代のフランス」同『古代ローマ世界を旅する』刀水書房，2009 年
米田利浩　「レラン修道院運動」『史林』55-5，1972 年
同　「古代末期試論：『古代末期史』研究の動向と課題」『史流』17，1976 年
同　「古代末期のギリシア文化」藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』南窓社，1993 年

欧語文献の日本語訳

F・アルトハイム（吉村忠典訳）「西方古代末期の問題性」『古代学』3-4，1954 年
P・アンダーソン（青山吉信・尚樹啓太郎・高橋秀訳）『古代から封建へ』刀水書房，1984 年
P・ヴェーヌ（西永良成・渡名喜庸哲訳）『「私たちの世界」がキリスト教になったとき』岩波書店，2010 年
F・W・ウォールバンク（吉村忠典訳）『ローマ帝国衰亡史』岩波書店，1963 年
K・エッシェー＆I・レベディンスキー（新保良明訳）『アッティラ大王とフン族』講談社，

2011 年
P・ギアリ（鈴木道也・小川知幸・長谷川宜之（訳））『ネイションという神話』白水社，2008 年
E・ギボン（中野好夫・朱牟田夏雄訳）『ローマ帝国衰亡史』筑摩書房，1976～1988 年
（I～IV　中野訳　V～VI 朱牟田訳）
同　（吉村忠典・後藤篤子訳）『図説　ローマ帝国衰亡史』東京書籍，2004 年
（R・ウィリアムズによる縮刷版を底本とした邦訳）
P・クルセル（尚樹啓太郎訳）『文学にあらわれたゲルマン大侵入』東海大学出版会，1974 年
P・J・ケイシー（西村昌洋訳）「古代末期のブリテン島」　ピーター・サルウェイ編（南川高志・佐野光宜・西村昌洋・南雲泰輔訳）『ローマ帝国時代のブリテン島』（オックスフォードブリテン諸島の歴史第 1 巻），慶應義塾大学出版会，2011 年
A・H・M・ジョーンズ（杉村貞臣訳）「ローマ帝国の衰退」古代学協会編『西洋古代史論集 III』東大出版会，1978 年
同　（戸田聡訳）『ヨーロッパの改宗 コンスタンティヌス大帝の生涯』教文館，2008 年
M・チェインバーズ編（弓削達訳）『ローマ帝国の没落』創文社，1973 年
F・ティンネフェルト（弓削達訳）『初期ビザンツ社会』岩波書店，1984 年
A・ドゥマン（栗田伸子訳）「アドルフ＝ヒトラーの政治思想におけるローマとゲルマニア」倉橋良伸・栗田伸子・田村孝・米山宏史編『躍動する古代ローマ世界』理想社，2002 年
Ch・ドーソン（野口啓祐・草深武・熊倉庸介訳）『ヨーロッパの形成』創文社，1988 年
E・R・ドッズ（井谷嘉男訳）『不安の時代における異教とキリスト教』日本基督教団出版局，1981 年
A・ドプシュ（野崎直治・石川操・中村宏訳）『ヨーロッパ文化発展の経済的社会的基礎』創文社，1980 年
E・トンプソン（木村伸義訳）『フン族―謎の古代帝国の興亡史』法政大学出版局，1999 年
ジャン＝レミ・パランク（久野浩訳）『末期ローマ帝国』白水社，1976 年
G・W・バワーソック（新田一郎訳）『背教者ユリアヌス』思索社，1986 年
H・ピレンヌ（中村宏・佐々木克巳訳）『ヨーロッパ世界の誕生』創文社，1960 年
P・ブラウン（宮島直機訳）『古代末期の世界』刀水書房，2002 年
同　（出村和彦訳）『アウグスティヌス伝』教文館，2004 年
同　（後藤篤子編訳）『古代から中世へ』山川出版社，2006 年
同　（足立広明訳）『古代末期の形成』慶応義塾大学出版会，2006 年
同　（戸田　聡訳）『貧者を愛する者―古代末期におけるキリスト教的慈善の誕生』慶應義塾大学出版会，2012 年
J・ブルクハルト（新井靖一訳）『コンスタンティヌス大帝の時代』筑摩書房，2003 年
H.-I.・マルー（岩村清太訳）『アウグスティヌスと古代教養の終焉』知泉書館，2008 年

A・モミリアーノ（秀村欣二訳）「キリスト教とローマ帝国の衰亡」古代学協会編『西洋古代史論集　III』東大出版会，1978 年
モンテスキュー（田中治男・栗田伸子訳）『ローマ人盛衰原因論』岩波書店，1989 年
B・ランソン（大清水裕訳）『コンスタンティヌス―その生涯と治世―』白水社，2012 年
A・リーグル（井面信行訳）『末期ローマの美術工芸』中央公論美術出版，2007 年
P・リシュ（久野浩訳）『蛮族の侵入』白水社，1974 年
B・レミィ（大清水裕訳）『ディオクレティアヌスと四帝統治』白水社，2010 年
M・I・ロストフツェフ（坂口明訳）『ローマ帝国社会経済史』東洋経済新報社，2001 年

（最盛期ローマ帝国に関する文献）

南川高志　『ローマ皇帝とその時代―元首政期ローマ帝国政治史の研究』創文社，1995 年
同　『ローマ五賢帝―「輝ける世紀」の虚像と実像』講談社，1998 年
同　「ローマ皇帝政治の進展と貴族社会」『岩波講座世界歴史　第 2 版 4』岩波書店，1998 年
同　『海のかなたのローマ帝国―古代ローマとブリテン島』岩波書店，2003 年
同　「古代ローマ帝国と近・現代ヨーロッパの自己理解」 谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社，2003 年
同　「ヨーロッパ統合と古代ローマ帝国」 紀平英作編『ヨーロッパ統合の理念と軌跡』京都大学学術出版会，2004 年
同　「西洋古代史研究とヨーロッパ・アイデンティティ」『人文知の新たな総合に向けて』（21 世紀 COE プログラム第 2 回報告書 I〔歴史篇〕）京都大学大学院文学研究科，2004 年
同訳　ピーター・サルウェイ著『古代のイギリス』岩波書店，2005 年
同　「リッチバラとポートチェスター―遺跡から古代が見えるか―」『西洋古代史研究』6，2006 年
同　「ハンガリーのローマ帝国―ブダペスト市内のローマ遺跡について―」『西洋古代史研究』8，2008 年
同監訳　ピーター・サルウェイ編（南川高志・佐野光宜・西村昌洋・南雲泰輔訳）『ローマ帝国時代のブリテン島』（オックスフォードブリテン諸島の歴史第 1 巻），慶應義塾大学出版会，2011 年
柴野浩樹　「書評　C・R・ホイッタカー『ローマ帝国のフロンティア』」『史苑』56-2, 1996 年
同　「書評　C.R. Whittaker, *Rome and its Frontier: The Dynamics of Empire*」『西洋古典学研究』53，2005 年
新保良明　『ローマ帝国愚帝列伝』講談社，2000 年
長谷川岳男・樋脇博敏『古代ローマを知る事典』東京堂出版，2004 年

Ch・ケリー（藤井崇訳）『ローマ帝国』（1 冊でわかるシリーズ），岩波書店，2012 年

（欧語の重要参考文献）

M.T.W. Arnheim, *The Senatorial Aristocracy in the Later Roman Empire*, Oxford, 1972

G.W. Bowersock, *Julian the Apostate,* London, 1978

R. Browning, *The Emperor Julian*, London, 1975

Cambridge Ancient History Second Edition

Vol. XII: The Crisis of Empire, A.D. 193-337 (A. Bowman, P. Garnsey & Averil Cameron eds.), Cambridge, 2005

Vol. XIII: The Late Empire, A.D.337-425 (Averil Cameron & P. Garnsey eds.), Cambridge, 1998

Vol. XIV: Late Antiquity: Empire and Successors, A.D. 425-600 (Averil Cameron, B. Ward-Perkins & M. Whitby eds.) Cambridge, 2000

Av. Cameron, *The Later Roman Empire,* Cambridge/MA., 1993

M.Carroll, *Romans, Celts & Germans: The German Provinces of Rome*, Stroud, 2001

A. Chastagnol, *L'évolution politique, sociale et économieque du monde romain de Dioclétien à Julien: La mise en place du régime du Bas-Empire* (*284-363*), 2e éd., Paris, 1985

J.D. Creighton & R.J.A. Wilson, *Roman Germany: Studies in Cultural Interaction,* Portsmouth/Rhode Island, 1999

A. Demandt, *Die Spätantike. Römische Geschichte von Diocletian bis Justinian 284-565 n. Chr.*, München, 1989

J.F. Drinkwater, *The Alamanni and Rome 213- 496 Caracalla to Clovis*, Oxford, 2007

H. Elton, *Warfare in Roman Europe, A.D. 350-425*, Oxford, 1996

R.M. Errington, *Roman Imperial Policy from Julian to Theodosius,* Chapel Hill, 2006

G. Halsall, *Barbarian Migrations and the Roman West 376-568*, Cambridge, 2007

P. Heather, *Goths and Romans 332-489*, Oxford, 1991

id., *The Goths*, Oxford, 1996

id., *The Fall of the Roman Empire. A New History of Rome and the Barbarians*, Oxford, 2006

A.H.M.Jones, *The Later Roman Empire 284-602*, Oxford, 1964, Baltimore & London, 1986

M. Kulikowski, *Rome's Gothic Wars*, Cambridge, 2007

N. Lenski, *Failure of Empire: Valens and the Roman State in the Fourth Century A.D.*, Berkeley, 2002

J.Matthews, *Western Aristocracies and Imperial Court A.D.364-425*, Oxford, 1975

id., *The Roman Empire of Ammianus*, London, 1987 with a New Introduction, Ann Arbor/MI, 2007

P. Southern & K.R. Dixon, *The Late Roman Army*, London, 1996

S. Tougher, *Julian the Apostate*, Edinburgh, 2007

C.R. Whittaker, *Frontiers of the Roman Empire: A Social and Economic Study,* Baltimore & London, 1994

id., *Rome and its Frontiers: The Dynamics of Empire*, London & New York, 2004

H. Wolfram, *Das Reich und die Germanen*, Berlin, 1990